

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第80号

[2016年1月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第80号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

JAMをご支援くださるみなさまへ

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで (32)

編集後記

次号の予定



## JAMをご支援くださるみなさまへ

新年明けましておめでとうございます。

みなさまの温かなご支援と応援に支えられ JAM は今年で9年目を迎えます。現地派遣員も6代目、「寄り添いながら」の理念を大切に、現場の声に耳を傾けながら活動にあたっています。見守り続けてくださるみなさまに、心より感謝申し上げます。

今年、メータオ・クリニックは新病院への移転を開始します。クリニックでは、施設と設備の限界から取り残されてきた多くの課題を乗り越えようと、移転に向けた話し合いが続けられています。いまだ経験したことのない大きな挑戦に不安を感じながらも、スタッフひとりひとりが誇りと使命感を持ち一丸となって懸命に取り組む姿に、私たちは改めて共感し、共に支えていく気持ちを再認識しています。

日本では、現地派遣員を通じて届けられる報告をもとに、クリニックの挑戦をいかに支えるか、月に一度メンバーが集まり検討を重ねています。とはいえ、医療の知識や経験だけではわからないことも多く、もっといろいろな分野のメンバーがいてくれたら…毎月そう思いながら活動を行っているのが現状です。

そこで今年の目標のひとつを、**日本事務局の強化**としました。

現地に触れながら考え、メータオ・クリニックにアイデアを届ける、そんな**運営メンバー(正会員)の活動を一緒にやってみませんか。**

ご興味ありましたらぜひ事務局までご連絡ください。

今年もみなさまからいただいた貴重なご支援とお気持ちをしっかりと現地へ届け、着実な活動を続けて参ります。本年もメータオ・クリニックと JAM を見守っていただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

## メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



## 最近のメソット

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

日本では1月1日がお正月ですが、ミャンマーのカレン州は、今年は1月10日に KAREN NEW YEAR を迎えました。毎年日にちや、お祝いのお祭りをする会場が毎年変わるとのこと。今年はメソトから近い国境付近にある、シュエココという町での開催だったので、メータオ・クリニックのスタッフと一緒にってきました。

大きなお祭りで、中には海外に移住しているカレン族の人もお祝いに合わせてミャンマーへ帰国していたようです。メータオ・クリニックでは、仮設の診療所を作って4日間のお祭りの間、24時間体制で緊急対応をしていました。ミャンマー国内では、地方の村ではまだまだ医者や看護師のいないヘルスセンターがたくさんあり、メータオ・クリニックのスタッフが、ミャンマー国内の医療支援に貢献している部分もあるようです。





カレンのお正月お祭り会場入り口



お祭りの会場内はたくさんの人でにぎわっていました(FB タイムラインの写真より)

## 素敵な鞆の寄付をいただきました

京都の有名なかばん屋さんの「一澤信三郎帆布」様より、たくさんの素敵な鞆のご寄付をいただきました。

昨年の10月に移民学校のwhite校へメータオ・クリニックのスタッフと鞆を届けに行ってきました。とても素敵な鞆に、こどもたちはもちろん、学校の先生、メータオ・クリニックのスタッフもみんな大喜びでした。12月には難民キャンプに性教育の講習を受けに来ていた生徒たちへもお届けしてきました。

新しい鞆を買うお金のない移民の方々にとって、とてもうれしいプレゼントでした。

一澤信三郎帆布様には以前にもご寄付を頂いており、今回で2回目となります。いつも心暖かなご支援に心より感謝申し上げます。



一澤信三郎帆布様のフェイスブックでもご紹介いただきましたので、ぜひご覧ください。  
本当にありがとうございました。

<https://www.facebook.com/ichizawa.shinzaburo.hanpu>

<http://www.ichizawa.co.jp/>



hite 校の生徒たち



難民キャンプでの性教育トレーニングに参加した生徒たち

## azbil みつばち倶楽部様より、11月に支援金を、 12月にはマスクのご寄付をいただきました

(アズビル様のホームページ) <http://www.azbil.com/jp/csr/soc/mitsubachi.html>

毎年、継続してのご支援、本当にありがとうございます。

メータオ・クリニックでは、入院患者さんの着る衣服が足りずに困っている方が多いため、患者様用の寝衣を作成したいと、メータオ・クリニックのスタッフと相談を進めている所です。ま



ずは小児科病棟で使ってみて、その後、内科や外科、産婦人科の病棟の患者様用の寝衣も支援できればと考えています。

JAMでは、以前より院内感染予防活動に取り組んでおり、患者さんには清潔な寝衣で過ごしていただきたいと考えています。寝衣をどのように洗濯して使用していくかも、今後スタッフと相談をしながら、洗い方についても指導をしていく予定です。



メソト市内にある公立病院で使っている患者さんの寝衣を見せてもらいに、メータオ・クリニックのスタッフと行ってきました。

## 国内から

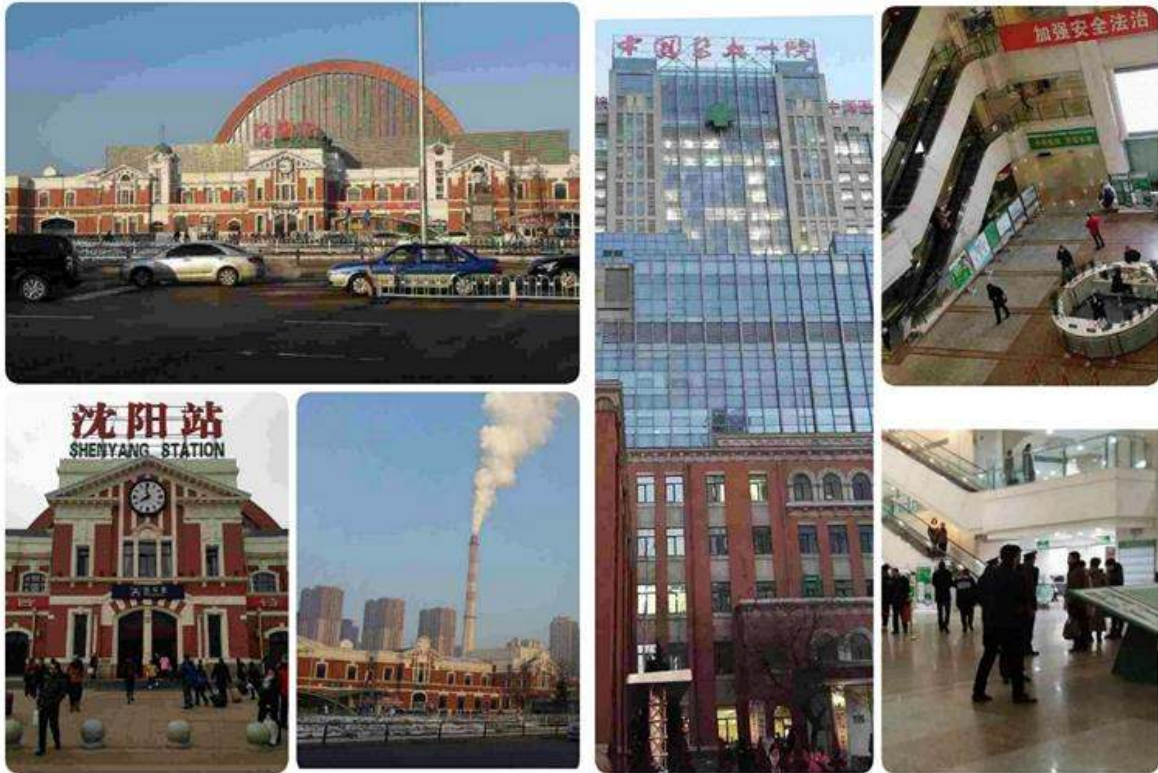
【東京＝福田】

国内出納担当の福田です。最近中国の瀋陽に行く機会が多いので、瀋陽の街についてお話しします。

瀋陽は中国の東北部にある遼寧省の首都で、北京からは北東に800km、函館と同じ緯度ですが月は気温が氷点下20度を更に下回る程の寒さとなります。瀋陽のこの5年間の発展はめざましく、飛行場のターミナルビルが3倍に拡張され、地下鉄が開通し、高速道路が整備され、市街地の古い建物が壊され商業ビルに変わり、一体誰が入居するののかと思えるほどの高層アパートが数多く建てられています。

瀋陽駅は、東京駅を設計した辰野金吾氏の弟子である大田毅氏が設計し1910年に完成したもので、ミニ東京駅という外観ですが、面白いことに赤レンガの東京駅が完成したのはそれから4年後です。瀋陽の「瀋」という字は中国では「沈」と書きますから、瀋陽＝沈む太陽です。下の写真の駅舎の中央のドームも、この地名を形にしたのかもしれませんが。白い煙を吐く煙突、これがPM2.5の一因です。白いのは煤煙のせいだけでなく気温が低いために水蒸気となっているせいかもしれませんが、PM2.5粒子の排出光景です。北京から来た人は、一様に瀋陽は空気がきれいだと言います。それでも日によってPM2.5の影響で霞がかかったようになります。





瀋陽には中国医科大学がありますが、付属第一医院が病床2千床、第二の盛京病院が3千床という巨大病院です。先日その病院内に入る機会がありました。



興味深かったのは大部屋の入口には、患者名が表示されているだけでなく、名前の横には患者の顔写真がデジタルで表示されていた事です。日本でもそのような表示を行っている病院があるのかもしれませんが、初めて見ました。見舞客あるいは医師・看護師にとっては便利だとは思いますが、病院内のこととは言え、家の表札に家族の写真を掲げるようなもののように思えて驚きです。帰りの出口でも面白い光景を目にしました。10人ほどの人が出口の近くに並んでいたのでは何なのかと見ていると、小さなスクリーンを数秒眺めては立ち去って行きます。何かを操作するわけでもなく、手はポケットに入れたままで、ただスクリーンに映った自身の顔を確認して立ち去って行くのです。様子からして職員の退出記録のようなのですが、顔認証だけで退出を記録しているなら、最新技術の導入の早さに驚きです。

街の風景が年々新しくなるこの街を歩いていて、一番気持ちが馴染む場所は、何十年も変わらずその地域の人達の生活の一部として生き続けている古い街並みです。汚いながらも生

活感が感じられ、驚きや感動はない代わりに、その場所を歩いているだけで気持ちが安らぎます。ただし夜の街並みの派手なネオンは、刺激が強い光景です。先ほどの大学病院ですら夜はネオンで縁取られますし、その近くにある人民解放軍 202 病院は、いかめしい名前ながら縁取りだけでなく光が滝の様に流れるネオンです。病院ですらそのような装飾ですから、高層住宅のネオンの演出は更に手の込んだものが数多くあります。でも決して日本や欧米のクリスマスのイルミネーションを想像しないでください。一言で言うとどぎついのです。けれどもこの街に生まれた人達にとっては、日本のイルミネーションなどよりずっと愛着を持てるのかもしれませんが。さすがに新しい商業ビルではネオンではなく、大型の液晶ビジョンやバックライトの欧米ブランドパネル広告ばかりですが、上の写真のような簡易ながらも派手な赤いネオンの方が、なぜか人肌の温かを感じます。

「住宿」は一泊数百円の簡易宿で、寝るだけならどこでも良いという私ですら、さすがに躊躇しますが、「春餅（シュンビン）」はこの地域特有の春巻きに似た料理で好きな食べ物です。自分で惣菜を巻いて食べるのですが、レストランではなく、家族経営の小さな食堂でしか食べられません。餃子は日本のものとは異なり皮の厚い蒸し餃子で、主食として食べます。もし瀋陽に行く機会があれば、是非赤いネオンの小さな食堂で、店番のおばちゃんのご主人が作った春餅と餃子を食べ、中国を感じてください。

最後に、これまでの皆さまからの暖かいご支援に感謝申し上げますとともに、今年も引き続き JAM を応援いただきたく、よろしくお願ひいたします。

## S0IF 様のイベントに参加しました

このたび、ご縁があり、1/17（日）東京医科歯科大学の演習室にて S0IF 日本の寄付文化に風穴をあける大人の遊び ～ 1/17(日) S0IF Vol.20 -大人の寄付遊び「紛争・難民」(リアル寄付体験プロジェクト)に参加し、当会の活動について PR をさせていただいてきました。

S0IF とは・・・

S0IF-日本の寄付文化に風穴をあける大人の遊び

S0IF (The Social Investing farm) は「寄付が変われば社会が変わる。自分と未来を変える新しい寄付のかたち」というビジョンのもと、「日本の寄付文化に風穴をあける大人の遊び」をされておられます。

メンバーさんは1万円、フェイスブックで参加を募って集まった一般参加者さんは1,000円以上を持ち寄って、当日最も共感した団体に寄付をする、というシステムです。

今回、ご一緒した他団体さんは

- ・公益社団法人難民起業サポートファンド / 代表理事 吉山昌 さん
- ・シリア難民支援団体サダーカ / 代表 田村雅文 さん

そして当会からは、前現地派遣員の鈴木がおうかがいしました。

NPO 法人メータオ・クリニック支援の会には 18,000 円が集まりました。大切にに使わせていただきます。S0IF の皆さま、参加させていただきありがとうございました。





色々なテーマで毎月、開催しているとのこと。ぜひ、フェイスブックをご覧ください。

SOIF－日本の寄付文化に風穴をあける大人の遊び－

<https://www.facebook.com/soiforg>

## 国際保健医療協力のなかで (32)

【東京＝小林 潤】



少子高齢化社会は日本を含む先進国だけの問題でなくなっている。2030年には東南アジア・東アジアの大部分の国は高齢化社会に突入すると予測されている。先進国病といわれた時代は終わり、我々は認識を変えないといけなくなっている。経済成長によるものだけでなく、保健医療の質の向上によって中低所得国においても人が長生きになっているのである。これは日本、韓国、台湾、シンガポールといった国だけでなく、地域全体で取り組む課題となっている。台湾では、介護を中心に保健医療人材の輸入を計って来た。

しかし近年、この動きは鈍化しているようだ。タイ人の人材が帰国しているのだ。タイも高齢化社会を迎えて、これらの人材が必要になっており、さらにはタイにおいても待遇が改善されてきているからだろう。これはある意味我々が必死になって医療の向上、保健活動の普及をやってきた成果なのである。高齢者をどう支えるか、介護の強化など日本は先進的にすすめている。ロボット等の活用も真剣に考えられてイノベーションも進んでいる。

しかし少子に関しては、あまり胸をはって言える状況ではないかもしれない。成人式である自治体の長が、「18-24歳が出産の適齢期です。皆さん頑張ってください」とスピーチをしたと報道がながれたが、違和感を感じたのは私だけだろうか。深い意図はなかったのかもしれないが、少子だから女性はどんどん子供を作りなさいといっているように聞こえる。少なくとも18-19歳は出産適齢期ではない。物理的適齢期と、精神的社会的適齢期は現代社会では異なっているだろう。未成年の出産は、貧困家庭に見られることが多い。家庭内暴力や育児放棄にもつながっていることは見逃せない事実である。一部の保健師さんたちは、積極的な介入をしてきており、そういうアプローチが届けば、これらの若いお母さんたちは良い子育てをすとも聞いている。ただし暴力は表にでてこない問題である。精神的な出産適齢期は20代半ばからだろう。さらにこれを未成年の出産をささえる社会はできているとはいえない。明らかに貧困が貧困を生み、さらに暴力にもつながっている負の連鎖を起し





していると沖縄においては報告されている。少子化の問題解決は、どんどん生みなさいでは解決しない。もっと悪化するだろう。貧困と多産の地域をみるべきである。この社会に逆戻りさせるつもりなのだろうか。子供の貧困は、沖縄だけでなく本土にも広がっているというのに。少ない子供だからこそ、質のよい子供を大事に育てられる社会を作るべきなのだと強く思う。

高齢化社会の保健医療の研究に資金がついてきているのだが、安易に群がっていくとは思っていなかった。しかし正月のNEWSを聞いて、そしてどれもこの発言に疑問を問うような報道はなかったのをみて、今年本気で取り組んでみようと思っている。

## 編集後記

金沢に行ってきました。京都に住んでいた頃は、福井県には夏はキャンプ、冬はスキーと何度も行ったけれど、そのお隣の石川県に行くのは初めて。というのも「ふるさと旅行券」に当選したから。



(小松空港で福井の恐竜博士がお出迎え)

行きは、ためたマイルを使って飛行機で行ったので、帰りは、一度乗ってみたかった北陸新幹線に乗って帰ってきました。北陸新幹線は、座席の枕が可動式なことに感激しました。座高にあわせて調節可能！

かに刺しも食べたし、おいしいものや温泉を満喫して楽しかったです。今度は輪島のほうにも行ってみたい。



(駅で衝動買いしてしまった餅の上に金箔がのった「カネモチ」)

